

なるアンバー・アラートは重要な役割を果たしている。

例えば、子どもの誘拐が発覚した場合に、このアラートでは、直ちにその情報を一般に提供し、高速道路の電光掲示板をはじめ、全米失踪・被搾取子どもセンターのホームページなどでも、直ちにその内容が発表される。最近では、全米失踪・被搾取子どもセンター、司法省、CTIA ワイヤレス協会、ワイヤレス財団が、ワイヤレス・アンバー・アラート・イニシアチブ(Wireless AMBER Alerts Initiative)を実施している。このイニシアチブは、テキスト・メッセージを受けることができる携帯電話の加入者に、このアンバー・アラート情報を提供し、失踪・誘拐された子どもの発見に力を入れている。

図表 21 アンバー計画の統計

成功したケース	510
全米合計の計画	120
州全体の計画	53
地域の計画	29
地元の計画	38

出所：MissingKids.com 2010年8月2日現在の状況

その他、サイバー・チップラインへ報告された内容でテキサス州に関係する場合は、直ちに同ラインから連絡が入り、州警察の捜査が開始されることになる。捜査に関しては、その事件の重要性にもよるが、事態が深刻な場合は、24時間以内に捜査が開始される<sup>153</sup>。

## 1.4 青少年のインターネット利用環境に関する民間機関の取組<sup>154</sup>

### 1.4.1 青少年のリテラシー能力向上のための活動

米国司法省や連邦捜査局のサイトでは、非営利団体や民間機関のインターネットの安全な利用に関する取組を参照リンクとして数多く紹介している。

インターネットの利用環境の改善には、多くの民間機関が関係しており、ここではその一部を紹介する。なお、第1章 1-3-3 で述べている EIE の「Internet Safety101」もその1つである。

<sup>153</sup> テキサス州検事局事務所担当者へのヒアリング（2010年11月22日）。

<sup>154</sup> 電気通信情報局の OSTWG の報告書では様々な組織団体をリストアップしている。  
[http://www.wiredsafety.org/miscdocs/OSTWG\\_Final\\_Report\\_060410.pdf](http://www.wiredsafety.org/miscdocs/OSTWG_Final_Report_060410.pdf) pp34-49, pp131-148

## Enough is Enough (EIE)

Internet Safety101 中で Enough is Enough (EIE) は、インターネット上における児童ポルノや児童虐待などへの取組の最良の方法は、まず、社会や法的機関が互いに責任を持って行動することであるとして、特に以下の3点が重要であるとしている。

第一は、青少年が危険な目にあわないように、保護者が自分達の子どもを守る必要がある。それには、保護者が子どもを保護できるように援助し、インターネットに関する教育・啓発を行い、ひいては、青少年自身がインターネットを正しく利用するために必要な知識を得られるよう、教育することが必要である。

第二は、インターネット産業が法に従い、保護者が利用できる青少年保護のツールをさらに開発する必要がある。昨今では、AOL、MySpace、Google、AT&T や Verizon 等の大手企業が、率先してインターネットに関連したツールを提供しており、EIE とも提携を取っている。

第三は、法曹界 (Legal Community) が、公共政策の抜け穴を見直し新たな公共政策の提言を行う必要がある。というのも、実際に議会において法案が通過しても、反対グループなどの抵抗に合い、実際の法律として施行されないケースが多い。もちろん、多くの児童ポルノや虐待者の取り締まりは行われているが、資金が十分に得られていないために、青少年をターゲットとした犯罪の撲滅までには至っておらず、既存の法律や規則についても、警察機関の取り締まりを強化するなどの処置が必要である<sup>155</sup>。

## ConnectSafely<sup>156</sup>

ConnectSafely は保護者、10代の青少年、教育者、擁護者等、ウェブに関心のある市民全てに対して、インターネットに関する教育普及活動を行っている団体である。

青少年の生活の一部として、今や、ユーザー参加型サイトや、マルチ・プラットフォーム型や、PC やモバイルでの SNS など、インターネット上にコミュニティサイトが氾濫している状況で、ユーザーがウェブ 2.0 を安全に共有できるように、情報提供が行われている。

同サイトのフォーラムでは、10代の青少年と保護者が、青少年の安全なインターネットの利用について議論することで、お互いの理解促進を図っている。ConnectSafely では、10代の青少年と保護者に対して、あらゆる種類の SNS に対応した助言や、最新のテクノロジー・ニュース、その他のリソースを提供し一般市民のリテラシー向上に努めている。

姉妹サイトにセーフ・キッズ (SafeKids.com)、セーフ・ティーンズ (SafeTeens.com)、「ネット・ファミリー・ニュース (NetFamilyNews.org) などがあり、子ども向け、10代の青少年

---

<sup>155</sup> Enough is Enough へのヒアリング (2010年11月19日)。

<sup>156</sup> ConnectSafely.org トップページ、<http://www.connectsafely.org/>  
SafeKids.com トップページ、<http://www.safekids.com/>  
SafeTeens.com トップページ、<http://www.safeteens.com/>  
NetFamilyNews.org トップページ、<http://www.netfamilynews.org/>

向け、家族向けに分けて、メディア・リテラシーの向上を目指した情報提供を行っている。

### SafeKids.com<sup>157</sup>

ConnectSafely の姉妹サイト SafeKids.com は、インターネットの安全な利用のための活動を行うサイトの中でも、最も古く最も長く続いているサイトの一つである。創設者ラリー・マジッド氏(Larry Magid)は、「情報ハイウェイにおける子どもの安全 (Child Safety on the Information Highway)1994」の作者であり、技術ジャーナリストとして子どもの安全に関連した記事を紹介している。

### I-Safe America<sup>158</sup>

I-Safe America は、Internet Safety 財団の活動の一環で、青少年が責任を持って安全にインターネットを体験ができるように、啓発活動を行っている。

チャットのホストや、ルームの監視者、HTML のコーダー、プログラマー、ライター、エディター、ユーザーなどが関わり、インターネットの安全な利用が一般に浸透するよう、あらゆる情報を提供している。

### Net Safety-The NetSmartz Workshop<sup>159</sup>

保護者と教育者のために 5～13 歳用のインタラクティブなレッスン計画を提供している。

### Net Literacy<sup>160</sup>

Net Literacy は学生が管理する非営利団体で、地域の福祉プログラムを通じて青少年の慈善活動を促進する活動を行っているが、そこでは公立の学校にコンピューター・ルームを創設し、それによって青少年のコンピューター・アクセスを増加させ、また、コンピューターとインターネットの技能を教える活動も行っている。Net Literacy は、このような活動により、インターネットに関するリテラシーを普及させている。

同団体は、ある中学校生徒が図書館で高齢者や小学生等にコンピューターとインターネット技能を教えるボランティア活動をしたことをきっかけに設立された非営利団体(501(c)(3)組織)である。

この始まりは、設立者の中学生がボランティアで教えていたワークショップに参加していた高齢者が、「自分達以外にも同様の教育を希望する高齢者は他にも多くいるが、身動

---

<sup>157</sup> SafeKids.com トップページ、<http://www.safekids.com/safety-advice-tools/>

<sup>158</sup> I-Safe America トップページ、<http://www.isafe.org/>

<sup>159</sup> 司法省 Computer Crime and Intellectual Property Section (CCIPS) A. Internet Safety、<http://www.justice.gov/criminal/cybercrime/links1.htm#ISSRa>  
NetSmartz トップページ、<http://www.netsmartz.org/index.aspx>

Youtube NetSmartz Video [http://www.youtube.com/results?search\\_query=NetSmartz&q=f](http://www.youtube.com/results?search_query=NetSmartz&q=f)

<sup>160</sup> Net Literacy トップページ、<http://www.netliteracy.org/aboutus.asp>

Net Literacy About Net Literacy、<http://partners.netliteracy.org/about/>

きができずに参加できない」といった現状を訴え、そういった声を受けその中学生が地元組織や政府機関の協力を得て、高齢者施設などに公立のコンピューター・ルームを設置し、自分から行動することが困難な子どもや高齢者などに対してコンピューターとインターネットの技能を教える活動を行うようになった。

特に青少年に対してのみの活動ではないが、米国での非営利団体の設立の背景として、顕著な例である。

### マイクロソフト社<sup>161</sup>による Stay Safe Online<sup>162</sup>

企業の取組<sup>163</sup>としては、大手のインターネット関連企業が、コミュニティーへの啓発活動を行っている。例えば、マイクロソフト社は、安全なインターネットの利用やセキュリティーに関する活動を行っている。

マイクロソフト社は、Boys and Girls of America という取組の一環として、Stay Safe Online というウェブサイトを運営している。同サイト内では、子どもがインターネットの利用に関して正しい選択ができるよう、チャット・ルームやメールの利用などに関して、分かりやすく説明している。

同サイトでは National Cyber Security Alliance (以下、NCSA) が後援し、インターネットを安全に利用する上で必要な情報や、そういった安全情報に関するの自覚テスト、また、教育用教材などを提供している。

### AOL<sup>164</sup>

大手インターネット・プロバイダの AOL は、創業時より、インターネットを安全に利用する上で必要な情報を提供してきた。

AOL は SafetyClicks というブログを運営し、インターネットを安全に利用する上で必要な情報の取得を補助するために、保護者、10代の青少年、子どもに対して必要なツールを提供している。

同ブログでは、インターネットを安全に利用する上で必要な情報に関することから、SNS、ネットいじめ、セックスティング<sup>165</sup>、インターネット上での情報共有など、さまざまな話題を網羅している。同時に、AOL はコンピューターのセキュリティー教育の教材とツールを提

---

<sup>161</sup> Microsoft, Facts About Microsoft, [http://www.microsoft.com/presspass/inside\\_ms.mspx](http://www.microsoft.com/presspass/inside_ms.mspx)

<sup>162</sup> Stay Safe Online | Brought to you by the National Cyber Security Alliance, <http://www.staysafeonline.org/>

<sup>163</sup> 司法省 Computer Crime and Intellectual Property Section (CCIPS) A. Internet Safety, <http://www.justice.gov/criminal/cybercrime/links1.htm#ISSRa>

<sup>164</sup> <http://corp.aol.com/about-aol/contact-information>

電気通信情報局の OSTWG の報告書「Youth Safety on a Living Internet」、

[http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG\\_Final\\_Report\\_060410.pdf](http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG_Final_Report_060410.pdf)

SafetyClicks blog, <http://blog.safetyclicks.com/>

<sup>165</sup> セックスティング (Sexting) とは、テキスト・メッセージを利用して、性的な内容やポルノ画像などを送受信すること。

供する「AOL Internet Security Center」を運営しており、インターネットの安全な利用の促進に取り組んでいる。

#### AT&T<sup>166</sup>

テキサス州ダラス市に本部がある大手電気通信会社の AT&T 社の「Stay Connected, Stay Safe site」では、有線・無線電信サービスの安全な利用に関する助言と対話式のゲームを提供している<sup>167</sup>。

また、同社では Wireless Smart という部署を設立して、保護者が子どもの通話を管理できるようにプログラム情報を提供している。例えば、a parents' guide to texting は保護者向けのテキスト・メッセージに関するガイドであるが、このようなプログラムは PDF ファイルでダウンロードができるようになっている。

#### GetNetWise.org<sup>168</sup>

このサイトでは、フィルタリング・ツールに関するデータベースや、子ども用のブラウザ、コンピューターの使用時間に制限をかけるツール、スパム・フィルタリング・ツールなどを家庭に提供している。また、MySpace と FaceBook のプライバシー設定の使用に関して、便利なビデオ・チュートリアルがある。

#### カリフォルニア州内の組織団体

##### Foundation for California Community Colleges<sup>169</sup>

同財団は、インターネットが十分浸透していない地域におけるデジタル・リテラシーとインターネット利用の向上を目指し、「California Connects」というプログラムを立ち上げている。

同州内でも特にインターネットが十分浸透されていない地域でのデジタル・リテラシーとブロードバンド・インターネット・アクセスを増やす目的で、同プログラムは、米国商務省の電気通信情報局のブロードバンド技術機会プログラム(Broadband Technology Opportunities Program、BTOP)から、1,090万ドルの助成金を受けている。このプログラムは3年の計画で、プログラムの中心となる地域に対して、奉仕活動やトレーニング、教育面

---

<sup>166</sup> AT&T Media Inquiries Contacts、<http://www.att.com/gen/press-room?pid=1916>

<sup>167</sup> 電気通信情報局の OSTWG の報告書「Youth Safety on a Living Internet」、[http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG\\_Final\\_Report\\_060410.pdf](http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG_Final_Report_060410.pdf)  
Stay Connected, Stay Safe site、<http://www.att.com/gen/landing-pages?pid=6456>  
Family and Child Online Safety Blog - SafetyClicks、<http://blog.safetyclicks.com/>

<sup>168</sup> 電気通信情報局の OSTWG の報告書「Youth Safety on a Living Internet」P40、[http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG\\_Final\\_Report\\_060410.pdf](http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG_Final_Report_060410.pdf)

<sup>169</sup> Corporation for Education Network Initiatives in California - GENIC トップページ、<http://www.cenic.org/>

GENIC Foundation Announces California Connects、P1~2

<http://www.cenic.org/Foundation%20announces%20California%20Connects.pdf>

Foundation for California Community Colleges トップページ、<http://www.foundationccc.org/>

での支援などを行い、カリフォルニア州の6万1,000人以上が新たにインターネットへアクセスができることを目標に、ブロードバンドの提供やコミュニティー・カレッジへのラップトップの提供等を行っている。

### カリフォルニア州コミュニティー・テクノロジー・ポリシー・グループ<sup>170</sup>

カリフォルニア州コミュニティー・テクノロジー・ポリシー・グループ (The California Community Technology Policy Group。以下、CCTPG)は、様々な地域密着型団体のネットワークであり、コミュニティーの先進技術へのアクセス向上を目的として、公共政策を提案している。

特に低所得者のメディア・リテラシーの向上を目指し、21世紀のツールとして欠かせないコンピューター、インターネット、ブロードバンドなど、デジタル社会の革新技術の恩恵をカリフォルニア州民全てが得られるよう努めている。このプロジェクトは、公共部門と民間部門が共同で取り組んでおり、学生が放課後に受けられる講習プログラム、コミュニティーの技術プログラム、その他の技術リソースなどを地域コミュニティーが州民向けに提供できるよう指導している。

### California Advocacy Program

非営利団体の The Children's Partnership<sup>171</sup>が恵まれない地域の青少年とその家族へ技術提供を行うプログラムで、上述の CCTPG の 200 に参加し、州レベルでの政策提言も行っている。

### テキサス州内の組織団体

#### オースティン市の児童保護施設<sup>172</sup>

オースティン市の児童保護施設 (Austin Children's Shelter) という団体では、虐待を受けたり放置されたりした子どもに対して、実の親に代わり一時的に代役を果たしている。

同団体が実施している「Building Tomorrows Program」のプログラムは、デジタル・リテラシーの向上のために、保護施設へコンピューターを提供したり、インターネットの学術面における子どもへのサポート、また、家庭教師の提供などを行っている。このプログラムには、第1章 1-3-3 で述べた「オースティン市助成金テクノロジー機会プログラム」

---

<sup>170</sup> CCTPG Broadband Adoption and Use in America、<http://www.cctpg.org/>

<sup>171</sup> The Children's Partnership Program: Digital Opportunity for America's youth、<http://www.childrenspartnership.org/AM/Template.cfm?Section=Technology>

<sup>172</sup> 2010 City of Austin Digital Inclusion Awards Nominees GTOPs2009 2010 City of Austin Digital Inclusion Awards、

<http://www.gtops.org/wp-content/uploads/2010/02/Nominees.pdf> P1

Dell US Giving Connected Communities、

<http://content.dell.com/us/en/gen/d/corp-comm/connected-comm.aspx>

Austin Children's Shelter、<http://www.austinchildrenshelter.org>

や地元の「デル財団<sup>173</sup>(The Dell Foundation)」なども協賛しており、その活動を支持している。

また、このプログラムの1つとして実施している「Technology Learning Lab」では、3～17歳の保護施設の子どもに、読書や数学、科学などの学習分野においてテクノロジー・ツールと教育を提供し、メディア・リテラシーの教育・啓発を行っている。

### 「Girlstart」、 「リバー市青少年財団」

また、デル財団自身は、保護施設への援助以外にも、オースティン市の他の青少年の教育活動を行っている各団体へも助成金「Connected Communities Grants」を提供するなどの活動支援を行っている<sup>174</sup>。

デル財団は、2年間で5万ドルの助成金を提供している。助成金を受けている非営利団体には、キャンプで実践的なテクノロジーの体験学習を行うプログラム「Girlstart」や、放課後や夏期講習会などを通じて、青少年のコンピューター・リテラシーの向上を行っている「リバー市青少年財団(River City Youth Foundation)」などが有り、この2つの団体は、共に「オースティン市助成金テクノロジー機会プログラム」からも助成金を受けている。

#### **1.4.2 ウェブサイト運営者に対するガイドライン策定<sup>175</sup>**

FCCは数年前、青少年が安全にインターネットを利用できるよう、環境改善を行うよう各インターネット事業者に対して働きかけを行っており、この推奨により業界の自主ガイドラインなどが作成されている。また、事業者はフィルタリング・ツールなどの提供も積極的に行っており、最終的には保護者に選択が委ねられている。そのため、事業者の間では保護者への教育・啓発活動も積極的に実施されている<sup>176</sup>。

---

<sup>173</sup> Dell Contact Us、  
<http://support.dell.com/support/topics/global.aspx/support/dellcare/en/contactusaddress?c=us&c s=19&l=en&s=dhs&~lt=popup>

<sup>174</sup> Dell US Giving Connected Communities、  
<http://content.dell.com/us/en/gen/d/corp-comm/connected-comm.aspx>

<sup>175</sup> カリフォルニア州は、Cyber Safety for Childrenの提携民間組織も全米で活動しており、カリフォルニア州のみで活動しているような民間組織は特定できない。カリフォルニア州個人情報保護室からの情報入手。ヒアリングより。(2010年11月18日)  
テキサス州検事局のサイトCyber Safetyで紹介している民間機関Netsmartzも全米規模で活動しており、特にテキサス州のみで活動している民間組織は特定できない。テキサス州検事局事務所担当者からの情報入手。ヒアリングより。(2010年11月22日)

<sup>176</sup> FCCへのヒアリングより。(2010年11月19日)